

令和5年度 第2回狛江市障害福祉サービス等事業所連絡会 子ども支援部会

2023.10.20 (Fri) 10:00~12:00 狛江市社会福祉協議会地域福祉推進室

参加者：小楠さん（ばる）、山本さん（すてっぷ）、白石さん（狛江市）、桜井さん（ウイング）、栗原さん、寺澤さん（狛江市教育支援センター）、沼田（ゆめぽっと）

1. 相談支援部会事例検討（野中式）の進め方について（報告）

2. 事例検討の進め方と事例の提供について

- ・参加者は準備が要らないので参加しやすい。
- ・事例を出す方が詳細まで知っている必要がある。
- ・進行者がファシリテーションの技術が必要（子ども支援部会で実施の際は相談支援部会から協力を得ることができる）
- ・守秘義務の遵守

■現状部会員の中で事例を出す方がいない。今後事例検討が必要なケースが出て来た時に実施する。

3. 教育と福祉の一層の連携等の推進について（白石さんより報告）

前回の子ども支援部会で学校との連携が課題に挙がっていた。過去に（平成30年）に文科省から通知が出ていたが、その時にはどのような事が出来るか検討出来ていなかったが今回改めて検討する事が出来た。10/16 校長会の中で検討。

1. 情報共有の推進

- ・校内での支援検討の場に外部からも専門職を呼んで支援内容の検討を行っているとの事。その際事業所の参加が出来るように配慮。

2. 学校生活との連携の推進

- ・事業所が学校訪問を行う際、副校長に打診を行い確認する。

3. 学校の教職員等への障がいのある児童生徒等に係る福祉制度の周知について

- ・放課後等デイサービスの概要や制度の周知を行う。

■学校での支援会議について

就学支援シートを記入した支援者を呼んで会議を行う。就学相談にも必要。

- ・学校からの聞き取りや会議に呼ばれたことはない
- ・送迎を利用した事業所を希望する場合があります、その場合は市外の事業所を呼ぶ場合がある。
- ・今年の就学相談の申し込みは80人に上る。

○児童発達支援事業から引き続き放デイを利用する際は、計画相談も利用している場合が多いが、放課後等デイサービスから利用する方の相談支援利用はどうだろうか。

- ・狛江市の中で相談支援を行っている事業所が少ない。
- ・児童に関わる相談支援事業で収益を出して行くのは難しい（高齢分野ではモニタリ

ング頻度が多く、収益見込みが立てやすい。モニタリングを行わなければ減算になる。)

- ・現在全ての学校に通級が出来て、都から心理士が巡回で相談を受けている。専門家でチームを組んで巡回相談を行っている(学期に1回)。

- ・母国語が日本語以外の子も増えており、その子たちへの対応が必要となっている。話せても読めない、書けない子が多くいる。

○学校とケース会議に呼ばれる事はある？

- ・調布支援学校は参加機会がある。また、相談支援者が主体となるケース会議は呼ばれる事はあるが、学校主体の会議に呼ばれ参加したことはない。支援学級の先生が事業所を訪れることも今までは無い。

○受給者証の切り替え(児童発達支援→放デイ)に伴う検査

→病院は高額、センターは無料で受ける事が出来る。件数が多い。毎年ではなく期間を空けて適切な時期に検査を行うように周知が必要。

○通級から市内の支援級がある学校に転校が必要な子は遠くてひとりで通えない場合も有るのではないかな？

- ・移送サービス：ハンディキャブで3人は送迎可能

→市から補助を受けて事業実施している(派遣ドライバー雇用に使われている)。

- ・市が事業所に委託する方法を検討できるのではないかな？

- ・1台で複数の事業所を回る、支援級を持つ学校が送迎車を出し生徒を乗せる等、様々な方法を検討できるのではないかな？

4. その他

次回の(第3回)子ども支援部会について

日時 令和5年12月15日(金)10:00~12:00まで

会場 狛江市社会福祉協議会 地域福祉推進室

内容 応急救護訓練とあいとぴあセンター見学